

私の博物誌

題字 石川進

第四十一回 「寅さんとアンパン」

フーテンの寅さんでおなじみの「男はつらいよ」シリーズは全四十八作を数え、人気映画として国中を沸かせたものだった。残念ながら私には、劇場で観た経験はない。

全作の寅さんを演じきった渥美清さんのキャラクターと、演技力を抜きには考えられない映画だったと思う。そして彼を抜擢した山田洋次監督の炯眼は非凡だとも思う。

飄然として世間を渡り、春風のように舞い戻ってくる。あり得ようはずのない人間像ゆえに、国民的な賞讃をいまだに受け続けるのだ。

全ての欲得を薄味にし、ブリリアントカットのダイヤを透過させた人格、一見、没個性に見える「寅さん」は、男版サザエさんか。

もう三年以上が過ぎたのだが、我が家の庭に入りするノラ猫の雄を見るように

なった。白黒の斑の彼を初めて見たころは、まだ幼獣だった。しかし、眼光は野生のもので鋭かった。そしてやたら大きな顔は真ん中が窪んで見えたのだ。

その印象は、年老いた雄のオラウータンのそのように、両頬がせり出して見えた。

時折、舞い降りる嘴太鶏や、狸、ごくたまに現れる猪などは、私達夫婦を友人とは見ない。従って慣れることもない。

野良でも犬や猫は永い関わりの中で馴らされたせいか、人間に対する敵愾心は少ないように思われる。

その猫と何度も会い、屈んで互いに顔を見合っても逃げなくなった。

妻が時折、食事の残りものを庭に出したりしているうち、朝夕来るようにもなってきた。

さて、寅さんは風の吹くまま気の向くままのフーテンぶりで時は過ぎていく。時として旅に疲れた彼が帰るところには、おい

ちゃん、おばちゃん、さくらをはじめ、隣の社長や義弟のひろしなど、温かな人情の浮輪が待っているという寸法だ。

そのことこそが観る者達の心を安らかにしてくれるのだ。

帝釋天の御前の口をついて出る一言は冷静でかつ公正、近隣の人々は限らない信頼を寄せている。もう一人、年をとった悪ガキといった塩梅のゲン公の、常識を外れた言動は、ドラマのスパイスとして奏功し、最高の布陣と見てとれるのだ。

再放送で何編かの「男はつらいよ」を見ているうちに、渥美清さんには失礼の極みだが、寅さんと野良猫の顔が二重写しになってきて、ノラが来れば、さあさあ寅さんといった調子で餌を出す。

雪駄を履いて来たり、トランクを下げてりすることは無論ないのだが、寅さんとノラをつぶさに観察していると、親しくは

なっても必要以上に入り込むことはなく、その辺りが実に似ている。

欲も得もあるにもかかわらず、完遂することはなく、観る側に残尿感を強いるところが実に心憎い。

ここ二年余り、ノラのための猫缶は私達の買い物必需品になった。気に入らなければ臭いも嗅がずにプイと去って、まるでメロンを喰い損ねた寅さんそのものだ。

うまそうに食事をしたあと、たまには礼のつもりか何条かのマーキングを残す。近ごろは馴れて、腹を見せたり、頭から背にかけて撫でさせるようにもなった。寅さんのような威勢のよい吠吠を聞くことはないが、尾の振り巾が大きくなっていること

で、彼の心中が読めるのが嬉しい。

そのノラが「アンパン」だ。



飄然と現れるアンパン



書いている人



石川進

いしかわ・すすむ

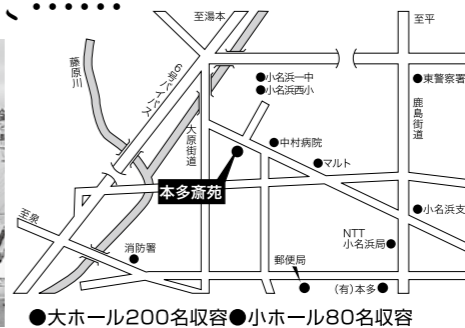
一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員、書法探求顧問。

宗教・宗派をとわず
どのような葬儀も
お任せください。



〒971-8111 福島県いわき市小名浜大原六反田町7-5
TEL(0246)92-1500 FAX(0246)92-1505

より厳かに より荘重に……



●大ホール200名収容 ●小ホール80名収容

虎の門病院医師ネットワーク会員

人工透析施設



KAMOME CLINIC

医療法人 **かもめクリニック**

理事長 金田 浩

かもめ・みなとみらいクリニック

横浜市西区みなとみらい3-6-3MMパークビル3F TEL.045-228-2212

かもめクリニック

いわき市草木台5-8 TEL.0246-28-1010

かもめ・大津港クリニック

北茨城市大津町北町字深田432-1 TEL.0293-46-0133

かもめ・日立クリニック

日立市東滑川町1丁目3186 TEL.0294-25-1531